



ズン首相

# 「原発協力、日仏が軸」

## 来年、6.5%成長に回復

「日メコン首脳会議」出席のため訪日したベトナムのグエン・タン・ズン首相は7日、都内で日本経済新聞社の喜多恒雄社長と会見し、ベトナム

が最重要インフラと位置付ける原子力発電所と高速鉄道の建設計画で日本との協力を強化する方針を明らかにした。総額1兆5000億円規模の原

発プロジェクトでは日本とフランスを軸に発注先を選定する意向を示唆。国内経済については2010年に6.5%成長を回復できるとの見通しを

示した。

(関連記事5面に)

ズン首相は日本が官民一体で受注を狙う原発について「日本の技術や経験を高く評価しており、積極的な協力を期待する」と表明。「国会で月内に(予備調査が)審議される予定」と述べ、調査結果が承認された後に「パートナー選定の条件を詰める」と、早ければ

年内にも発注先の選定作業を始める考えを明らかにした。

原発は同国南部のニントアン省に建設する方向で調整中。20年の運転開始を目指しており、実現すれば東南アジアで初となる。

ハノイとホーチミンを結ぶ総事業費5兆円の「南北高速鉄道」建設計画では「日本に規格作成とコンサルティング業務を要請した」と明らかにした。国営ベトナム鉄道が導入に意欲を示す新幹線方式について「技術も安全性も高い」と評価したが「どういった方式を採用するかは検討中」と述べるとどめた。

景気の現状について、09年の国内総生産(GDP)伸び率は政府目標を0.2%上回る5.2%になるとの見通しを示し「世界経済が厳しい局面にあるなか、かなり高い水準」との認識を示した。